



発行：夢みるこども基金事務局
〒810-0042
福岡市中央区赤坂1丁目12番6号 赤坂Sビル2F
TEL 092-751-0021(代)
FAX 092-751-0249
Eメール: yumemirukodomo@standbyyou.com

2004

No. 9
〈平成16年〉
9月23日



夢みるこどもキャンペーン 第10回記念イベント にぎやかに



「夢みるこどもキャンペーン」が遂に10年目に到達—歯の金属冠リサイクルで得た浄財でこどもたちの夢をかなえ、福祉にも役立てる活動を展開している「夢みるこども基金」（理事長 井堂孝純・日本歯科医師会会長）の10回目の記念イベントが8月1日、福岡市中央区のアクロス福岡で行われた。

今回のテーマは、春休みに開かれた「こども会議」で決定した「こどもたちが結ぶ10年の夢」。キャンペーンの10年を総括し、新たな出発点にしようとの願いが込められている。

参加したのは「こども会議」の出席者17人の他、1回から9回のイベントに参加した卒業生“174人の中から選ばれた35人、1回目のイベントに参加した神戸の震災孤児、熊本県・阿蘇のホームステイ先の家族など5人。これに役員、ボランティア、一般市民など総勢約350人が参加してにぎわった。

午前中の「盲導犬の健康相談・検診」のあと、午後1時から開会セレモニー。これまでにキャンペーンに協力してきた5つの法人・団体、個人1人に感謝状が贈られ、「福岡盲導犬協会」へ2頭目の盲導犬贈呈の目録が渡された。このあとイベントがスタート。キャンペーンの10年間の活動をまとめたビデオが上映され、第1回のイベントで震災で大きな被害を出した神戸市に、こどもたちが育てて植えた兵庫県木の「クス」や、バン格拉デシュに建てた「夢みるこども基金学校」を視察した、こども代表の報告があった。

こどもたちはそれぞれ自分たちが参加したイベントを思い出し、懐かしそうだった。

記念イベントとあって、プログラムは多彩で、休憩を挟み5時間に渡った。特にこどもたちが前日「夢」をテーマに作製した、高さ1.8メートル・長さ12.6メートルの張り絵が披露されると、こどもたちの無限に広がる「夢」の力作に観客から大きな拍手が送られた。

このあと、シンポジウム「こどもたちとネット社会を考える」が開かれ、こどもたちの代表に基金のアグネス・チャン理事らも加わり、ネット社会の問題点などについて、体験をもとに活発な意見が交わされた。

久しぶりに再会したこどもたちは、作文・イラストに記した「自分の夢」への取り組みなどについて語り合い、「このキャンペーンは、夢をみるのがどんなに素晴らしいことかを教えてくれました。夢はどんなに試練があっても乗り越える力を持っていきます」との「こども宣言」を出し、幕を閉じた。



夢の張り絵

第1回イベント参加
板垣 茉莉子

第10回を迎えた今回の夢みるこどもキャンペーンで、こどもたちはそれぞれの夢を描いた一つの作品を作りました。こどもたちは複数のグループに分かれて、各グループに割り当てられた「海」や「空」それに「宇宙」といったテーマに基づいたパネルを作り、それらをつなぎ合わせ一枚の大きな張り絵にした。

パネルは一枚が高さ1.8メートル、幅90センチ。これに色とりどりのテープを張り付けていきました。計14枚で全長126メートルの大きな絵。つなぎ合わせると、画面中央に描かれた大きな樹を中心に、こどもらしい夢が画面いっぱい散りばめられた夢の作品が出来上がっていました。

もちろん、この作品を作り上げる過程も簡単ではありませんでした。その日初めて顔を合わせるようなメンバーがほとんどの中での共同作業です。はじめのうちは、当然こどもたちにもとまどいの表情が見受けられました。しかし、作業を進めていく内にこどもたちの仲も次第に打ち解けていったようで、お互いに様々なアイデアを持ち寄り、試行錯誤しながら夢を形作っていくこどもたちの表情は、活き活きとしていました。

昨日までは他人だったこども同士、それぞれに得意なこと不得意なことを持ち合わせていても、互いの足りない要素を補いあいながら一つのことを成し遂げていく様子を見て、私は思いました。様々な人との出会いがあるからこそ、夢もまた形作られていくのではないかとということですね。こどもたちがこれからめぐり会う出会いの数だけ、夢はその彩りを増していくように思えます。

この「大きな絵」が、こどもたちの夢を持ち続け強さを育んでいける糧となることを願います。



▲張り絵を作るこどもたち



「はっくん2号」が誕生

第7回イベント「バリアフリーの社会を作る」の一環として、基金が福岡盲導犬協会に贈った盲導犬「夢みるこども基金・はっくん1号」（ラブラドル・レトリバーの雌）は中途失明者である福岡県筑紫野市の主婦・脇崎恵子さん(42)のパートナーとして活躍している。

基金では10回目のイベントの記念事業の一つとして、「はっくん2号」（180万円）を同協会に贈ることとした。来年中には「はっくん1号」の妹か弟が誕生。目の不自由な人のパートナーとして活躍することになりそうだ。

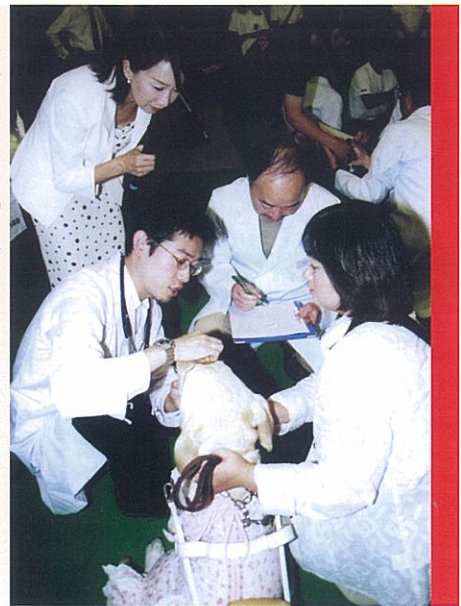


盲導犬の健康相談・検診

アクロス・イベントホール前で開かれた「盲導犬の健康相談・検診」には、夢みることでも基金が贈呈した盲導犬「夢みることでも基金・はつくん1号」の他、福岡盲導犬訓練センター（福岡県前原市）の訓練犬、繁殖犬8頭が参加。獣医師、歯科医師各3人が2人ずつペアを組み、カルテに基づいて虫歯などをチェック。ほぼ全頭が健康面で問題になることはなかった。

こどもたちは静かに口を開いて検診を受ける盲導犬を見ながら「かわいい」を連発していた。盲導犬の検診は珍しいため、テレビ局も取材に来ていた。

▶ 検診を受ける「盲導犬・はつくん1号」



▲オリジナル3曲を演奏

国立療養所筑後病院（福岡県筑後市）に筋ジストロフィーで入院中の少年バンド「GAOH（ガオー）」が、夢みることでも基金のイベントに参加するのは第4回イベント「夢の放送局」（福岡市・キャナルシティ）に続き2度目。メンバーは、リーダーでキーボードの松本賢次郎さん（27）ら5人。「あなたがいるから」などオリジナルの3曲を演奏。難病を抱えながら前向きに生きる松本さんらの、熱の込められた歌と演奏が会場を包み込み、涙を流す人たちもいた。

GAOH-BANDライブ
 心に響く演奏に感動

ネット社会はルールをわけて

テーマは「子どもたちとネット社会を考える」。最近、社会問題になって来たネット社会について、実際にネットを利用してはいる子どもたちが、それぞれの体験を生かしてさまざまな角度から意見を出し合った。

子どもたちの代表9名が登壇。理事のアグネス・チャンさんと、南日本放送キャスターの陶山賢治さんがコーディネーターになり、シンポジウムが始まった。

子どもたちは「メールは口頭では言えないことでも素直に相手に伝えられる」「自分の作品を見てもらいたくから、ホームページを立ち上げた」「多くの人とコミュニケーションが取れてうれしい」など、その利点を上げた。

しかし、問題も多い。「ホームページに、意味不明な中傷をする書き込みなどがあり、嫌な気分になった」

「コミュニケーションの道具なのに、子どもたちからお金もつけしようとする業者がいる」「長崎県・佐世保市の小学生殺人事件もメールではなく、直接話し合っていたら事件にならなかったと思う」「他人を把握していないので、利用客に正常な使い方を教えないといけない」など、実例を上げての意見が続出した。

アグネス理事と陶山キャスターは「機械としゃべっている気持ちになり、現実とかけ離れてしまうことに陥る危険性がある。ネット社会では守らなければならぬルールがある。ネット社会が急速に進んだので、教育現場などにもそれに追いつかないのが現状。利用者それぞれが、ネットマナーを身につけるとともにネット社会の法整備も必要だ」と締めくくった。



▲さまざまな意見が出された

〈開会式〉

キャンペーンを支えた団体・個人に感謝状



▲秋山理事長代行

午後1時、FBS福岡放送の古賀ゆきひとキャスターの司会で開会。理事長代行の秋山治夫・福岡県歯科医師会会長が「夢みることもキャンペーンもついに10年目を迎え、非常に感慨深い。キャンペーンを支えて来た、全国の参加協力歯科医院の先生方も喜んでいと思っています。これを新たな出発点にして、さらにキャンペーンを広げて行きたい」と挨拶した。また、来賓を代表して日本歯科医師会副会長の山下喜世弘・香川県歯科医師会会長が祝辞を述べた。

このあと、キャンペーンを支えて来た「日本通運株式会社」など下記の5つの団体・法人と、個人1人に感謝状が贈られた。また、「福岡盲導犬協会」に盲導犬1頭（180万円）の目録を贈呈。バングラデシュの「夢みることも基金学校」と「ネパール歯科医療協力会」に各30万円、「福岡・ネパール児童教育振興会」に10万円の寄付金がそれぞれの代表に贈られた。

福岡盲導犬協会の大山徳次郎常務理事が、4団体を代表して「基金の温かい支援で、それぞれの活動を進めることができます」と感謝の言葉を述べた。

そして、キャンペーンの10年間の活動を収めたVTRが放映され、参加した子どもたち52人がステージに上がり、紹介された。

感謝状を受けた団体と功績は次の通り

- ▼日本通運株式会社
全国の参加協力歯科医院の、補綴金属冠の回収・輸送に全面協力。
- ▼株式会社JALセールス
春の「子ども会議」や、夏のイベントを支援。
- ▼株式会社福岡放送
夢みることも基金設立時より、キャンペーンの取材・報道に協力。
- ▼株式会社ジーシー
春の「子ども会議」や、夏のイベントを支援。
- ▼福岡博多東ライオンズクラブ
キャンペーンの一助として寄付金を寄贈し、活動を支援。
- ▼中国武芸知剛塾館長・岡部歯科医院院長
岡部知剛氏主催の「終極格闘王争覇戦」などの大会収益金の一部を寄贈し、活動を支援。



岡部知剛氏主催の「終極格闘王争覇戦」などの大会収益金の一部を寄贈し、活動を支援。



▲感謝状を受けた団体・個人

ひさしぶりの再会に 笑顔

今年のイベントに参加した子どもたちは52人。10回目の記念イベントとして、第10回の「こども会議」のこどもたち17人の他、第1回から9回のイベントに参加したOB・OG 35人が全国から参加した。イベント前日の7月31日、福岡市東区の「ホテル海の中道」に集合したこどもたちは、久しぶりの再会に感激し、思い出話を花を咲かせた。

この日は、ホテル近くにある水族館「マリンワールド」を観賞した後、10周年の記念として高さ1.8メートル・長さ12.6メートルの巨大な「張り絵」作りに挑戦した。テーマは「夢」。

色とりどりのテープを使って描かれた張り絵が出来上がると、会場には拍手と歓声が上がった。また、イベント本番に備え「こども宣言」の練習や「シンポジウム」の打ち合わせなども行われた。

夕食会はクイズなどで盛り上がり、和やかなムードの中、イベント前夜祭は幕を閉じた。



▲前夜祭はゲームなどで盛り上がった



▲キャンペーンの歴史を振り返った

10年間をビデオに キャンペーンの

平成7年の第1回イベント「阿蘇こども出会の里」から平成15年の第9回イベント「日本の心を イラクのこどもたちへ」までの過去9回のイベント、それに今年のバンングラデシュ「夢みるこども基金学校」の訪問などイベントの10年間をまとめたビデオが完成した。

FB S福岡放送がニュースとして取材・放映した分に、基金事務局が撮影した分を加えて約10分間にまとめた。キャンペーンの歩みが分かりやすく収められている。

ビデオを見たOB・OGのこどもたちも、自分の姿を見つけて大喜び。新たにイベントに参加したこどもたちは、先輩“たち”が積み上げて来たキャンペーンの「歴史」を感心しながら見入っていた。

基金では今後、このビデオを催しなどの会場で放映して、キャンペーンのPRに活用する。

第10回イベント テレビでPR

FB S福岡放送の人気番組「めんたいワイド」掲示板コーナーで、夢みるこどもキャンペーン第10回イベント「こどもたちが結ぶ10年の夢」のPRをした。

同番組の街頭放送は7月29日午後5時すぎから、福岡市・天神のイムズ前広場で行われ、実行委員の長尾怜美さん（九州歯科大二年）と事務局スタッフ2名が出演し、暑い日差しが照りつけるなかイベントの内容を紹介し、一般の人たちの参加を呼びかけた。



2004年 こども会議

夢みるこども基金の第10回こども会議は、4月4日、福岡市中央区天神、アクロス福岡で開かれた。

会議に出席したのは、基金が全国の小・中学生を対象に募集した「私のかなえたい夢・絵・コンクール」の応募作品総数二四九六点の中で入賞した25人。このほか父兄、一般市民、基金関係者ら約百二十人が参加した。

会議は円形ホールで開会。秋山治夫夢みるこども基金理事長代行（福岡県歯科医師会会長の挨拶のあと）と作文・絵の講評に移り、作文について田中儀夫理事、絵について平松暁実行委員（グラフィックデザイナー）が、それぞれ審査結果を説明した。

続いて、アグネス・チャン理事・歌手・エッセイスト・教育学博士がキャンペーン経過について報告。「夢みるこどもキャンペーンも今年で10年目。私は基金立ち上げから関与してきたが、年々と成果をあげていると思う。こどもたちの夢をかなえるためには、大人の理解と応援が必要で、私も夢を見続けた」と述べた。

入賞者表彰のあと、作文の部で最優秀賞を獲得した福岡市・和白中一年、青柳里沙さんが「笑顔にかこまれた仕事」を朗読した。また絵の部で最優秀賞の福岡県大野城市・大野南小六年、山下就仁君が作品「トンプスイマー」について説明した。

午後は、アグネス・チャン理事と陶山賢治氏（南日本放送編成本部長）がコーディネーターとなって全体会議が開かれた。こどもたちは、入賞作品にこめた夢について、それぞれ発言した。この中で、夏のイベントについて話し合い「みんなで力を合わせ、記念になるモニュメントを作ろう」と決めた。

この会議の席上、福岡博多東ライオンズクラブ（山本俊三郎会長）から基金へ寄付金が贈られた。

2003年「私のかなえたい夢」作文・絵コンクール応募作品数と入賞・佳作内訳

- ◇応募総数 二四九六点（作文一七二九点、絵七六七点）
- ◇作文▽小・中校一〇九九▽全教研・英進館六一七▽個人一三
- ◇絵▽小・中校七四七▽全教研九▽個人一一
- ◇入賞・佳作
- ◇作文▽最優秀一▽優秀二▽特選八▽入選二四▽佳作五三
- ◇絵▽最優秀一▽優秀二▽特選八▽入選七▽佳作三二

「OB・OG会」結成

私たちは「夢みるこども基金」の家族

1回から10回までのイベントに参加したこどもたちは計174人。7月31日に、福岡市東区の「ホテル海の中道」で行われた前夜祭で、こどもたちから「イベント参加者による「OB・OG会」を結成したい」との提案があり、了承された。

「OB・OG会」の結成は、キャンペーンを一過性のもものとせず、せっかく知り合いになった仲間たちが連帯感を持ち、それぞれ連絡を取り合ったり、今回の記念イベントのように何年かおきに一堂に会して交流をしていくのが狙い。

それによってお互いが、作文やイラストに託した「夢」がどうなったか、その後の生き方などを語り合う中で、励まし、助け合い、豊かな人生につながるようというもの。OB・OG会には父母も加わり、親同士も交流を深めることを確認。家族ぐるみで基金を支え発展させるため協力することになった。

基金事務局でもこれを受けて「OB・OG会」の名簿を作成し全員に配布する。また毎年秋に発行している「夢みるこども基金だより」も郵送する。たよりに、キャンペーンを財政的に支えて下さる協力歯科医院の申込み葉書も付けて送り、それぞれが、かかりつけや知り合いの歯科医院があれば「協力歯科医院」に加入してもらうよう働きかけてもらいたい。よろしく願います。

歯医者さんありがとう

石川県
三宅 由季



(第4回イベント参加)

今まで夢みるこども基金にご協力くださった歯科医の皆様、私は、第4回キャンペーンで「歌手になりたい」という夢をかなえて頂きました。飛行機に乗ったり、たくさんの人たちの前で手話をしながら歌ったりと、私には初めての経験ばかりでした。私だけではありません。

第1回の長尾怜美さんたちから今回の受賞者たちまで全員が、それぞれのキャンペーンでの出来事を大切な思い出として心にしまっていると思います。

私は、あのイベントをきっかけにして、いろいろなことに積極的にチャレンジするようになりました。そして、高校三年生になった今、また夢に向かって勉強しています。

今回のイベントに参加して、この10年間の歩みを知り、改めて、夢みるこども基金の存在の重さを実感しました。

これからも、一人でも多くのこどもたちの夢をかなえてあげて下さい。私も、夢みるこども基金のOGとして頑張ります。

福島県
小牧 泉希



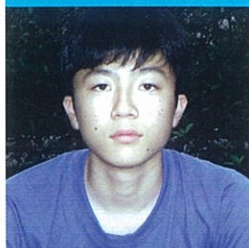
(第10回イベント参加)

私は、今回のイベントに初めて参加しました。みんなで水族館へ行ったり、一緒に大きな板に夢の絵を制作したり、とてもワクワクして楽しかったです。色々な

人と仲良くなって本当にすばらしいイベントでした。一番おどろいたことは、今年で10年目で、今までも色々な夢をかなえてきたということです。大きなケーキを作ったり、放送局をしたり、ホームステイをしたり、一緒に参加したお兄さんやお姉さんたちは、大人になっても、心に残る素敵な思い出と話していました。

その夢を、私たちの身近な歯医者さんたちが協力し、かなえてくれることを知りました。白衣の歯医者さんが、私たちに夢を運んでくれる「サンタ」さんのように見えました。私が遠く福島から参加できたのも白衣のサンタさんたちのおかげだとても感謝しています。これからも、みんなの夢をずっと応援してくださいね。ありがとう。白衣のサンタさんたち。

福岡県
黒木 毅



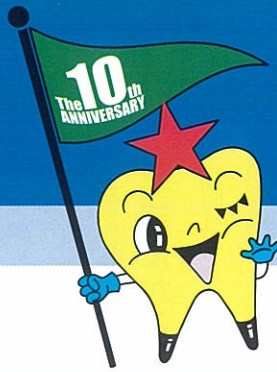
(第7回イベント参加)

日本には全国各地に歯医者があります。特に福岡県には多いそうです。

僕たちの夢はこの歯医者さんの協力によって実現してきたのです。

しかし今まで、自分たちの夢を叶えるために努力をしてきましたが、協力してくれている歯医者の方々や、事務局の方々、そして長尾さんへ感謝することを忘れていたと思います。活動中、色々お手伝ってもらったり、迷惑をかけたり、それでも協力してくれた方たちに、感謝しないのは絶対おかしいです。だから、この機会に、今までしてこなかった感謝の気持ちを伝えたいと思います。

みなさん今まで本当にありがとうございます。これからもよろしく願います。



第1回から10回までの イベント参加者氏名

(総数174名・敬省略)

◇ 第1回 阿蘇こども出会いの里

【青森県】板垣茉莉子【兵庫県】吉田綾香・吉田春菜【山口県】石田清香・滝本久【福岡県】長尾怜美・徳永いづみ・白水由希・大田黒靖之【佐賀県】吉田雄一【長崎県】中村直樹【大分県】高原祥太【熊本県】津留明日香【宮崎県】萩元健太・海老原由佳・飛田祐一【鹿児島県】久保山和典・山元啓五

◇ 第2回 阿蘇こどもみどり村

【青森県】板垣茉莉子【山形県】平井一仁【埼玉県】上野彰子【神奈川県】大多和淑美【兵庫県】井口真衣【島根県】佐貫仁美【愛媛県】竹田哲志【福岡県】平岡千智・吉峰万尋【佐賀県】古賀健太郎【長崎県】小場幸恵・坂本美智子【大分県】田島安有美【宮崎県】河野せり菜・根本香・中村優香子・中神大司・山中崇照【鹿児島県】鮫島一成

◇ 第3回 世界のこどもと手をつなごう

【東京都】羽生氏郷【埼玉県】山岡愛【島根県】佐貫仁美【福岡県】小林夏織・福成さゆり・柿本麻子・平田晋平・濱野貴予嗣【佐賀県】内川貴夫【長崎県】小場幸恵・豊永智春【大分県】田島隆弘・田島安有美【熊本県】木村英輔【鹿児島県】竹原洋貴・牧原知広

◇ 第4回 夢の放送局

【東京都】阿部佐和子・上島悠希【埼玉県】中村みさ代・宮本洋司【石川県】供村美樹・三宅由季【島根県】村尾咲子・渡部綾【愛媛県】大塚翔平・佐々木由貴・山本更紗【福岡県】平田恵美・網谷舞美・山元綾乃・永田直行【鹿児島県】小川弘晃・牧原知広・永山誠

◇ 第5回 ケーキがつなぐ友情の輪

【東京都】守屋浩大【愛媛県】佐々木由貴・瀧本惇美・三多直美【福岡県】竹下明子・福留優・盛弘真斗・大田彩・三好祥子・小林祐紀・金子理緒【佐賀県】中川内慎也・岡亜里紗・田澤歩【宮崎県】太田友里絵

◇ 第6回 アフリカの大地に根付けこどもたちの願い

【北海道】富樫美穂【茨城県】宮本香織【千葉県】山崎大地【大阪府】岡由佳【兵庫県】長谷川優・藤田麻佑子・藤田亜佑美【山口県】牟田真秀【福岡県】野崎百合那・白浜充・上野彰子・江崎晋太郎・平松沙真・山本航世【長崎県】佐藤尚

◇ 第7回 バリアフリーの社会を作ろう

【千葉県】山崎大地【愛知県】下中美香【大阪府】大西優香・陶山志緒梨【山口県】真庭藍【愛媛県】上田武蔵・松本奈巳【福岡県】松田祥幸・川崎千聖・吉原綾・米田絢賀・田辺愛・東あゆみ・黒木毅・伊藤ひかる・大神祐貴・増田祐太郎【大分県】杉田由樹【宮崎県】兒玉萌・鮫島彩

◇ 第8回 世界のこどもたちと交流

【大阪府】精松和美【福岡県】永嶋英佳・原法恵・松隈有希・江口佳奈・河原愛・迫田宗一郎・平井彩子・平松沙真・甲斐真・小島健太郎【佐賀県】山口花鈴・松尾祥平

◇ 第9回 日本の心をイラクのこどもたちへ

【北海道】弘中香乃実【東京都】巢籠悠輔【神奈川県】望月ひかり【富山県】坂本陸歩【岐阜県】米野瑠璃【滋賀県】畑中芳子【大阪府】岡本法子【山口県】大矢格・大矢透【徳島県】城埜希世美【福岡県】常廣あずさ・菊池令華・松隈有希・小林杏里沙・三友彩・西野新太郎・岸元紫乃・今福聡【長崎県】大石幸・前川亜希【大分県】本多玄太郎【鹿児島県】茅野和哉

◇ 第10回 こどもたちが結ぶ10年の夢

【福島県】小牧泉希【東京都】岡部憲和【兵庫県】下齒亜紀【山口県】大矢格【福岡県】青柳里沙・梶原彩香・小川勇輔・松尾美咲・佐藤香苗・溝口稲穂・緒方胤浩・山下就仁・小川暁代・金光浩伸・梅崎加奈・鳥羽隆太郎・本居舞【鹿児島県】柴涼香

第10回夢みる子どもキャンペーン

「私のかねえたい夢」 最優秀作文

笑顔にかこまれた仕事



福岡県 和自中学校二年 青柳 里沙

「里沙ちゃんの将来の夢って何」と聞かれたことがありました。まだ幼かった私はその内容もよく知らず、頭の中のイメージのみで「花屋さん」だと答えました。

今、私が同じ質問をされたなら、私は自信を持ってその職業を口にすることができます。

介護福祉士―私が初めてこの職業に出会ったのは、小学校三年生の時でした。以前から患っていた病気が悪化し、手足を自由に動かすことができなくなった祖母を、笑顔で一生懸命介護してくれた人。どんなに大変そうな仕事にも嫌な顔一つせず、取り組んでくれた人。そしてなによりも、病気で落ち込んでいた祖母に笑顔をくれた人。それが介護福祉士でした。そのような姿を見て、私は大変そうだけど、さまざまな人の笑顔に出会えるすてきな仕事だと思いました。私が介護福祉士に興味を持ち始めたのは、それからです。その後、介護福祉士について知れば知るほどすばらしい仕事だと思うようになり、今では将来に就きたい職業にまぎれなくなりました。

そんな今の私にできることは、まずなによりもお年寄りの人を大切にすることだと思えます。電車で席をゆずってあげたり、階段などの上り下りに困っていたら手助けをしてあげたりなど、私にもできることが数多くあります。そういうことをやることで、たくさんの人と出会うことができ、笑顔を見ることができるようになります。

人が笑うと誰だって気持ちが良いくなります。誰だって笑ってもらえると元気が出るはずですよ。介護福祉士とはそういう仕事です。だから、その言葉を実現させるために、先ほどあげたようなことを実行していくことが、夢をかなえるための第一歩だと思います。

笑顔をもたらしたりあげたりできる。そんなすごい仕事につけた時、今までとは違う、新しい未来ができてあがるのではないのでしょうか。

イラストの部・最優秀賞

「トップスイマーになりたい」



福岡県 平野中学校一年 山下 就仁

将来、日本のトップスイマーになりたいです。この絵はトップスイマーになるために泳いでいる自分を描きました。これからも、上を目指して頑張ります。



夢を、出会いを、ありがとう！
キャンペーン10年への思い

第10回イベント参加・夢みる子ども基金実行委員
長尾 怜美

先日、誕生日を迎え二十歳になりました。私がこのキャンペーンに初めて参加してから10年の月日がたちました。後半の5年はスタッフとして参加させて頂いたのですが、改めて振り返ってみると様々な出会い・思い出が脳裏をかすめます。そしてこの数々の出会いこそ、今の私を形作ってくれたのだと確信しています。

今回は10年の節目ということで、今年4月に、第10回のイベントを行った熊本県の阿蘇久木野村と記念樹のクスノキの木を植えた神戸に行きました。阿蘇の大地を久々に踏みしめ、私は当時と同じ景色を見ながら、あの時この場所にいた自分と今の自分を重ね合わせ、様々なことに思いを馳せていました。

第1回は神戸震災で両親を亡くしたことも私たちと一緒にホームステイを体験しました。久木野村の人々は変わらぬ温かい笑顔で迎えてくれ、当時の思い出を懐かしそうに語りながら、心温まるひと時を過ごしました。あの夏からこの10年の間に里親の方々と子どもたちの間にそれぞれのストーリーがあったことを知りました。中には、本当に震災孤児をひきとって育てたいと申し出た里親もあつたといっています。

神戸に行った際も、平成8年に「夢みる子ども基金」の記念樹として植えたクスノキの木を神戸の吉田綾香ちゃん姉妹と見に行き、見上げるほどの高さになったクスノキの木を見て歳月の長さを感じました。

ホームステイで一緒だった神戸の綾香ちゃんとは、イベント以来文通を続けてきました。正直、私は10年前のホームステイで綾香ちゃんとも話した記憶がありませんでした。そして、彼女の笑顔も見た記憶がありません。でもそれは、本当に当たり前のことだったと今更ながらに気がきます。私は彼女の地獄の苦しみを何も理解していませんでした。しかし、彼女は今はしっかりと前を見て笑っていました。母の遺志を継ぎ、保育士という立派な仕事をこなしている彼女を頼もしく思いました。

第10回イベントのこの日、見覚えのある顔を見つけては話しかけ、本当に久々の再会を喜び合いました。このつながりは不思議な感じがします。学校の友だちともただの知り合いとも違う・・・まるで遠い昔の自分に再びあつたような気持ちがありました。10年前のあの日の時、確かに同じ場所について同じ時を過ごした仲間・・・過ごした時間は一瞬でも、一緒に一つの物を作り上げたという思いは永遠に消えないものです。そしてまた、参加した期は違っても、この「夢みる子ども基金」を通じてつながっている仲間、という意識が皆の胸に自然と芽生えているのを感じました。

この日は神戸の綾香ちゃん春菜ちゃん、阿蘇の里親一家の皆さんも駆けつけてくれ、10年前阿蘇と一緒にホームステイをしたメンバーが、再び全員揃って再会することが出来ました。

あの当時は、皆好きに夢を語り、希望に満ちた目で夢を追いかけていた子どもたち。その子たちが今は社会人や大学生となり、本当の自分の夢に向かって自分の力で夢を切り開いています。ある子は教師、ある子は看護士・・・他にも様々です。あの頃夢見ていた夢とは違っているかもしれないけれど、中に

私たちの小さな夢が、たくさんの人々の協力で大きくふくらみ、今日、全国のごどもたちが福岡市に集い、夢みることでもキャンペーンの第10回イベント「ごどもたちが結ぶ10年の夢」を開きました。

第10回という節目を迎えるにあたり、全国から第1回から第9回までのイベントに参加したごどもたちや、1回目と2回目のイベントに参加した阪神淡路大震災のごどもたち、筋ジストロフィーの少年バンドの方たちも招き、総勢約350人という大規模なイベントとなりました。懐かしい友だちとの再会や、新しい友だちとの出会いの中で、長さ12・6mもある巨大な張り絵をみんなで力を合わせて作り上げ、自然と打ち解けあうことができました。

10年前に神戸に、「夢みることでもキャンペン」の象徴として皆で植えた小さなクスの木の苗。それが今、見上げるほどの大木となり、10年の月日の長さを思わせてくれます。

この10年間に色々なことが起きました。阪神淡路大震災に始まり、年々低年齢化する少年犯罪。また世界各地で悲しい戦争が起きました。多くの失われた尊い命、また新しく誕生してきた命もはかりしれません。私たちは激動の20世紀から21世紀という未知の扉を開き、新しい時代の一步を踏み出しました。

そしてまた、この10年の間にたくさんの方の夢が生まれました。その形は大小様々ですが、一途に夢を追いかけける心は、皆同じでした。ふと目を閉じると、このキャンペーンを通しての様々な出会いや思い出、一緒に夢を作り上げたときの感動が脳裏に浮かびます。今回、懐かしい友だちとの再会で当時の思い出話に花が咲きました。数年前、様々な夢を語り合い、一緒に夢を作り上げた友だちが、今は立派なお兄さんお姉さんとなり、今度は自分の手でそれを実現しようとしています。しかし、中には厳しい現実と直面し、昔抱いた夢が「おとぎ話」に変わろうとしている人もいました。私たちにあってこのキャンペーンは、夢をみるのがどんなに素晴らしいかを改めて教えてくれた場所です。どんな環境、境遇であれ、夢をみることは自由です。そして、何度でもチャレンジできるのです。ここを私たちの原点として、夢みる心を忘れずに夢に向かっての最初の一步を踏み出していきたいと思えます。

あの大きなクスの木は、私たちの夢の木です。一本の太い幹があり、そこから様々な方向にたくさん細い枝が広がっています。とどまることを知らない夢の広がり。一本から二本へ、二本から三本へ。同じように一つの夢から新たな夢が生まれ、またそこから新しい大きな夢が生まれていくのです。そしてその夢の木は、枯れたように見えることもありますが、また葉をつけ、花をつけ、実をみのらせ

ます。風で一本の枝が折れても、またたくさん枝が伸びていきます。一つの夢が破れてもまた元に戻って、別の夢を探せばいいのです。夢は、どんな試練があっても、必ず乗り越える力を持っているのです。私たちも、この大きな夢の木のように、どんな障害や行き止まりがあっても、夢を追いかけて空に向かって高く、そして大きく成長していきたいと思えます。

10年にわたる大きな夢の架け橋は、今日で終わることなく、今日を新たな出発点として未来に続いていくものと信じています。

2004年8月1日

第10回 夢みることでもキャンペン

「ごどもたちが結ぶ10年の夢」参加者一同

ごども宣言



は夢が挫折し、違う夢を歩む決意をした子もいることでしよう。でも私はしっかりと目に焼き付けました。保育士や教師になった友人たちの、本当にうれしそうに充実感に輝いた顔。10年前、いきいきと希望に満ちた顔で夢を語っていたごどもたち。あの頃と輝きの色は違うけれど、また同じように、今度はまっすぐに、迷いのない目で見据えている友人たちの姿を、互いにはつきりと確認し合いました。

人の頑張っている姿というのは本心に響くものです。アテネオリンピックで数々の活躍をされた選手の方々。彼らの懸命な頑張りに、なぜ私たちが感動するのでしょうか。それは「夢や目標を持ち、それをあきらめずに継続していく心」を自分の全てで表現しているからだと思えます。そして彼らのほとんどが挫折を経験し、それを乗り越えてきた人々です。生きる希望や目標を見つけるのがどんなに大切なことかを、彼らは自らの努力で私たちに教えてくれています。

私も進路に悩み、自分が何をしたいのかわからなくなったりすることがありました。そのときの私を救ってくれたのが「夢が実現することへの喜び」でした。10年前、たった一人のごどもに過ぎない私の作文に託した小さな夢を、かなえてくれたこのキャンペン。空想の世界でしかなかったその夢を、様々な方々のご協力で現実の世界に提示してくれたときの喜びは今でも覚えています。小さな自分の願いをこめた夢が認められたような気がしたので、それがごどもたちにとってどんなにうれしいことかと、私がよく知っています。

そのときのごどもが、自然と私に新たな夢をもちたせてくれたのです。私はこのキャンペンから二度も夢をもらいました。一つ目は小学生だった私の作文の夢を本当に実現してくれたこと、二つ目は小さなごどもたちの願いを、未来に向けて継続的に手助けしていただく側になったこと。そして大人になればなるほど、日本歯科医師会の方々を始め、ごども基金のスタッフの方々のごような犠牲を払って、私たちごどもをかなえようとして下さったのを知りました。本当に感謝の気持ちです。

ごどもたちの自由な夢を見る心を育て、そして今度は自分の力で夢を切り開く力を育み、その夢から新たな夢を生み出し、いつまでも夢を追い続ける心を築くこと。それがこの「夢みることでも基金」の根底にあるものではないでしょうか。夢に向かってがむしゃらに突き進んできて、しかし、一度立ち止まって自分の歩んできた道を振り返ってみる。私はこの「夢みることでも基金」が、立ち止まって自分をもう一度見つめなおす場所であればいいなと思っています。ここが私たちの夢の「原点」であるということです。

私がかれから大人としての道を歩んでいく中で、一番大切にしたいのが「人との出会い」です。偶然の出会いもあれば運命の出会いもあるでしょう。全てが「必然」と「偶然」から成っており、人はそういう出会いを繰り返しながら、自分という人間を確立させ、成長させていくものだと思います。中でも私は「偶然」の出会いがもたらすものはすごいと思います。ごどもキャンペーンとの出会いも今となっては運命だったのかなと思います。ごどももありませんが、これも偶然が生んだ出会いだと思っています。第10回というこの場に参加することで、また新たな出会いが生れました。夢という一つのことを通じてつながっている私たちです。これからはごどもさんごどもさんごどもさんごどもさんが繰り返され、輪が広がっていくことではないでしょうか。

地域に根ざした

バングラデシユの

「夢みるこども基金学校」

個性的で優秀なこどもたち370人

今年4月29日から5月6日にかけて、夢みるこども基金スタッフ5人がバングラデシユ・カラムディ村にある「夢みるこども基金学校」を訪問。1999年に学校が開校されて5年目となるが、こども基金スタッフがこの学校を訪問するのは初めてだ。

カラムディ村は、首都ダッカから飛行機と車を乗り継いで4時間のところにある小さな村だった。車の窓から見渡す景色、全てが日本とまるで違う。四方に全く山がなく、どこまでも広がる空と地の境目一地平線。見るもの全てが新鮮で驚きの連続だった。

畑しかない平地の中でひとときわ高くそびえたつ白い建物。それが「夢みるこども基金学校」だった。バングラデシユの学校制度は、5・5・2年制である。この学校の生徒数は370人で、教師が14人、5〜17歳までのこどもたちが通っている。中には自宅から30キロ近く離れた子も遅刻することもなく毎日通っているというのを知り、驚きと同時にうれしさを感じた。



▲バングラデシユにある「夢みるこども基金学校」

前日に学校を下見に行つたところ、着いた途端にこどもたちが駆け寄つてきて、奇つて歓迎の準備をしていたのだらうか。みんなこぼれるような笑顔で、手を差し出してくれた。驚いたのは、こどもたちの積極性だ。初対面の私たちに、物怖じもた



▲訪問団の歓迎会

らいもせず、我先にと英語で話しかけてきてくれた。そのこどもたちの顔を見ただけで、自分に自信を持つて学んでいるのが分かった。

5月2日の歓迎会の日は、雲ひとつない晴天だった。学校の正門で車を降りた途端に、青い制服を着たこどもたちの花道が作られており、花東の歓迎や歌の歓迎、そして運動場には立派なステージが設置されていた。想像もしていなかったあまりの歓迎のすごさに、心底驚き感動した。向こうのテレビ局のカメラマンも来ていて、村を上げての一大イベントのようだった。

私たちが壇上上がり、一言ずつ挨拶をした後、こどもたちから日本とバングラデシユを結びつた旗が贈られた。その後こどもたちは、40度近くもある猛暑の中、約2時間の間、私たちのために様々なパフォーマンスで歓迎してくれた。

バングラデシユの国旗をかたどった組体操や、民族衣装を着た女の子の踊り、独特の楽器を使った演奏、ベンガル語での詩の朗読。小さな体を揺らしながら、歌っている姿がなんともかわいくて、温かいものがこみあげてくるのを感じた。劇なども言葉は分からないながらも、こどもたちの本格的な衣装や演技に目を奪われた。これだけの準備をするのに、一体どれくらいの日を要したことだろう。こどもたちの純粋な思いに感動と感謝の気持ちでいっぱいだった。強く感じたのは個性的で、優秀な子の多さだ。勉強だけでなく、様々な面で秀でているこどもたちの才能がここにあった。こどもたちの劇や踊りにしても、司会にしても、大人は一切加わらず、こどもたちだけで作り上げた舞台の完璧さや本格さにただただ驚いた。

国内で注目される学校

歓迎が終わった後は、校舎案内をしてもらった。開校当初は一階建てだった校舎も立派な三階建ての校舎となり、図書館や展示室といったものもあった。図書館には、こどもたちの授業の成果の展示などもあり、生き生きとした

こどもたちの授業風景が伺われた。校舎見学の後は、保護者との懇談会が行われ、保護者も教育熱心な方が多く、授業の様子や将来の進学などについての熱心な意見が多かった。まだ設備や学校運営については不十分などころも多く、問題も多く残されていた。

何よりもうれしかったのが、この学校の全てのこどもたちが自分たちの学校を誇りに思っているということだ。こどもたちは私たちに、この学校の素晴らしさを伝えたいと言わんばかりに色々なところを案内してくれた。その名の通り、こどもたちだけでなく村全部の夢と希望をのせた学校だ。バングラデシユでも注目される学校になりつつあるという。そして、学校は「夢みるこども基金」に携わる全ての人たちの夢であるということも感じ、将来この学校からバングラデシユを担う人材が出てくるだろうと確信した。

教員養成学校として高校、大学の増設も計画

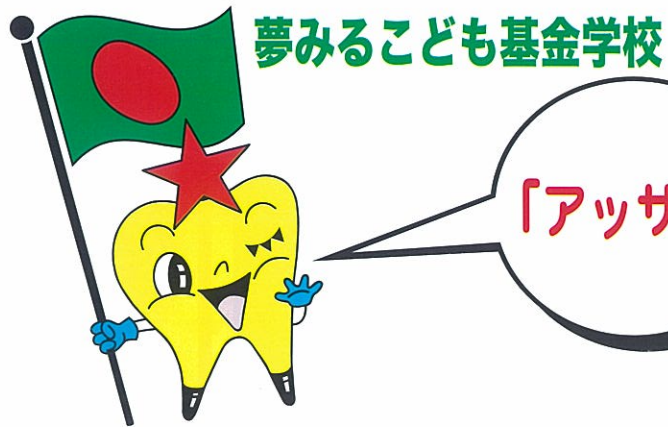
学校は将来、教員養成学校として現在の小、中学校に高校、大学をつくることを計画している。ここで学んだこどもたちが、また次のこどもたちを育てていくのだ。真つ白な校舎は、まだ何も描かれていないこどもたちの無の純粋な心の象徴である。この真つ白な校舎に、こどもたちはどんな夢を描いていくのだろうか。そして、そのこどもたちの描く大きな夢をこれからも見守っていきたい。

今回、バングラデシユに行つて強く感じたことは「百聞は一見にしかず」ということだ。今までも基金学校の話は色々聞いてきたが、こどもたちの目の輝きをこの目で見たとき、自然と涙がこぼれてきた。いつの日か「夢みるこども基金」のイベントに、この学校のこどもたちも一緒に参加できる日が来るよう、努力していきたい。

(第1回イベント参加 長尾 怜美)



▲ステージを見守るこどもたち



夢みるこども基金学校

日本の皆さん
「アッサラーム・アライクム！」
こんにちは！



▲学校運営について話し合う父兄



▲歓迎の合唱



▲田んぼの中に建つ夢みるこども基金学校



▲教室に勢揃いしたこどもたち



▲マスゲームでの歓迎



▲長尾さんを取り囲むこどもたち



▲こどもたちが作った置き物



▲民族舞踊の披露

夢みることも基金は、今年も「ネパール歯科医療協力会」と、バングラデシユ「夢みることも基金学校」に三十万円、「福岡・ネパール児童教育振興会」に十万円を寄付します。また、「福岡盲導犬協会」に盲導犬一頭(百八十万円)を寄贈します。盲導犬には「夢みることも基金・はっくん2号」の名前が付きまます。

ネパール歯科医療協力会

理事長 中村 修一

活動15年が経過 485人の隊員派遣

1989年に始めた私たちの活動は、15年が経過。これまでに17回のミッションを現地に派遣し、現在18次隊プロジェクトを展開中です。過去15年間で、5万5千200人に歯科診療や保健活動を実施しました。この間、日本から参加した隊員は485人(男性286人・女性199人)を教えます。参加した隊員の職業は、歯科医師、歯科衛生士、看護師、保健師、助産師、学生、研究生、一般など多岐にわたります。

ネパールでのプロジェクト項目は、歯科診療、訪問、歯科保健、学校歯科保健、フッ素洗口、口腔保健専門家の養成、母子保健、母子歯科保健、トイレプロジェクト、栄養指導などです。現在は口腔保健専門家の育成の結果、現地口腔保健専門家により自立型歯科保健が展開できつつあります。

これらの事業が展開できたのも「夢みることも基金」をはじめ、多くの皆様のご協力やご指導のおかげです。隊員一同、心から感謝し、今後更なる活動を続けていきたいと思っています。

NPO法人福岡・ネパール児童教育振興会

理事長 篠隈 光彦

継続は力なり ニルマルポカリ学校6年目へ

1999年に福岡ニルマルポカリ学校が開校して以来、継続して多額の支援金を賜り、ありがたく心よりお礼申し上げます。おかげさまで、毎年、30名(一学年)ずつ増員することができ、2004年4月現在、240名もの生徒を収容することができています。

当初は小学校(5年制)教育に対する支援計画でしたが、長期に亘って関わっており、現地の状況や問題点がわかってきて、それら一つずつ乗り越え解決し、6年目を迎えた現在、学校施設や運営システムが整ってきたように思え「継続は力なり」を実感しております。将来、学校の運営を資金援助に頼らず自力で執り仕切る目的として、村人はコーヒ栽培をスタートしました。

ネパールのニルマルポカリの子どもたちが、遠く離れた福岡と深く関わりあいながら成長していく様に、大きな喜びと感動を覚えます。

最後に、夢みることも基金の充実したご活動に敬意を表し、益々のご発展を祈念申し上げます。

盲導犬「はっくん2号」の寄贈に感謝

財団法人福岡盲導犬協会

常務理事 大山 徳次郎

盲導犬は、眼の不自由な人の眼となり杖となつて、その安全な歩行を助けることだけでなく、更に家族の一員として眼の不自由な人の心の支え・癒しとして活動しています。平成14年12月夢みることも基金から、盲導犬「夢みることも基金・はっくん1号」(愛称:エンジェル)が、福岡県筑紫野市在住の脇崎恵子さんに寄贈されました。

脇崎さんは、その後、「はっくん1号」と共に、他の助けを借りることなく、いつでも、どこへでも自由に動かせることができるので生活が明るく楽しくなつたと喜び、同基金のご厚意に心から感謝しています。

また、このたび同基金から改めて、盲導犬「夢みることも基金・はっくん2号」寄贈のお申し出を頂きました。盲導犬育成にかかわる当協会としては、早期にそのご芳志にお応えすべく、受贈者の選考、盲導犬の育成、その他諸般の準備を進めています。

当協会は、同基金のあたたかいご芳志に感謝し、併せて同基金の益々のご発展を衷心より記念申し上げます。



▶盲導犬「夢みることも基金・はっくん1号」

日本障害者歯科学会も後援

日本障害者歯科学会(向井美恵会長、会員3000人)は平成15年秋、夢みることも基金の理念や活動に賛同し、会を挙げて基金の後援を決定した。

学術団体が夢みることも基金の後援になるのは、平成15年1月の「日本顎咬合学会」(会員5500人)に次いで2つ目。基金はこれを受けて、同年10月18、19の両日、東京都文京区・文京シビックセンターで開かれた「日本障害者歯科学会総会・学術大会」に基金スタッフ3人が参加。

会場内に「夢みることも基金コーナー」を開設し、これまでの活動報告などをパネルやビデオ放映でPRした。さつそく多数の会員に「協力歯科医院」として登録頂いた。

また、プログラムの一つとして開かれた「都民公開講座」に講師として出席したアグネス・チャン理事は、講演の最後に「夢みることも基金を取り上げて」「子どもたちが夢を胸に抱いて生きて行くことは素晴らしいこと。それを支えている基金に、一人でも多くの歯科医師の先生たちが加わって頂くよう私からも願います」と呼びかけた。



▲日本障害者歯科学会に出展した夢みることも基金コーナー



**10年を新たな出発点に
一人でも多くの歯科医師の応援を**

平成6年（1994年）にスタートした「夢みるこどもキャンペーン」が、ついに10年目を迎えました。社会貢献の一つとして設立当初から、このキャンペーンに全面的に協力して来た日本歯科医師会も、感慨深いものがあります。

第一回のキャンペーンに参加した、当時の小・中学生の大半が成人になり、一部はすでに社会人として働いています。その姿に、このキャンペーンを中心になって支えて来た、全国の参加協力歯科医師の先生方も喜んでいらつしやると思います。

一口に10年と言いますが、ここにたどり着くまでに色々な苦労もあったと思います。キャンペーンの主役はこどもたちですが、こどもたちの夢を実現するために協力して来た歯科医師、基金の役員、ボランティア、協賛企業など、多くの方々に感謝申し上げ、敬意を表します。

10年目の記念イベントには、1回目から9回目までのイベントに参加したOB・OGも参加、どの顔も「夢と希望」に満ちた表情で、見守る大人たちも感激し、頼もしさを感じたようです。

いつの時代でも、こどもたちは社会の宝であり、私たちの希望です。主役はこどもたちですが、それを応援する歯科医師を中心にした大人も、こどもたちと一緒に「夢」を描き、その実現に力を合わせて取り組んでいるのが、このキャンペーンだと確信しています。

キャンペーンは10周年を新たな「出発点」として、また次の目標に向かって歩き出します。こどもたちばかりでなく、私たちも含め、人はみんな「夢」があるから生きて行けるし、「夢」があれば、どんな困難に直面しても乗り切って行けると信じています。

こどもたちがいつも「夢」を抱き、それに向かって力強く歩を進め、潤いと希望に満ちた社会づくりを目指すこのキャンペーンをさらに充実、発展させて行こうと私も気持ちを新たにしています。一人でも多くの歯科医師の先生方に、このキャンペーンに加わって頂くよう、一層のご協力をお願い致します。

**あの子たちがこんなに大きく：
キャンペーンをやってきて良かった！**

私にはすぐに分った。目の前のかわいい女性たちが、あの時、阿蘇で出会ったこどもたちであることが。「あの子たちがこんなに大きく、立派に育ったのね」そう思うと急に胸がつまり、目頭が熱くなってきた。

「夢みるこども基金」が始まった年に、阪神淡路大震災が起きた。震災で親を亡くしたこどもたちを招待して阿蘇で交流した最初のイベントのことが、まるで昨日のよう思い出される。元気のなかつたこどもが、だんだん楽しく遊ぶようになった。最初は元気だった子が、急に泣き出したりもした。そんなこどもたちは、10年経って、すっかり大人っぽくなった。

「私のこと覚えていますか。私、保母さんになったの」「わたしは教師」「私は高校生」

周りに集まってきたこどもたちは、みんな輝いていた。こどもたちと再会できたことが、10周年記念イベントのなかで、何より嬉しいことだった。「やつぱりこの活動をやっている良かった」と強く思った。

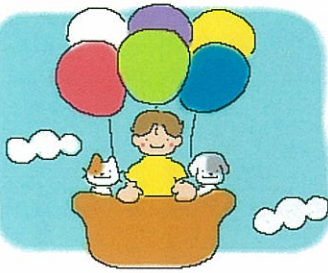
こどもたちの夢を応援するために始まった基金は、今年の夏で10年目を迎えた。小学生だったこどもが大学生になり、中学生だったこどもが社会人になった。みんなそれぞれの道に進み、自分の夢の実現にむけて、頑張っている。

全国から集まってきたOG・OBたちは、性格はみんな違うが、人生に対する目的をしっかりと持っているように見えた。「一本の筋が通った芯」が、みんなの心を支えているように感じた。もしこれが、「夢みるこども基金」と触れ合った成果だったとしたら、この10年間の努力は無駄ではないと思つた。

毎年、全国から寄せられるたくさんのおもたの作文を読む。絵を見て審査をする。そして入賞したこどもたちと「こども会議」を開き、夏には夢の実現イベントをやる。その結果、今では人々の心を結ぶたくさんの「橋」が建てられた。パングラデシユの学校、筋ジストロフィーのバンドの皆さん、盲導犬の普及活動など、友達の輪は、日本だけでなく確実に世界に広がっている。

設立前から基金に関わっている私にとって、「夢みるこども基金」とこどもたちの成長は本心に心強い。これも、たくさんの方々の歯科医師の方々とみんなの支えあつたこと、感謝、感激、感動で胸がいっぱいだ。これからも、みんなで日本のこどもたち、世界のこどもたちの夢を応援し、育てて行きましょう。ご協力よろしくお願ひします。

夢のイベント



子ども会議



こどもの夢がかなうまで



審査



1 作文・イラストの募集

毎年、「私がかねえたい夢」をテーマに公募。対象は全国の小学4年生〜中学2年生まで

2 審査

「夢みる子ども基金」理事会・実行委員会にて、作文・イラストを審査し、入賞者を決定

3 子ども会議

春休みに入賞者を招待し、「子ども会議」を開催。夏休みに「夢のイベント」を決定

4 夢のイベント

夏休みに「子ども会議」のメンバーを招待し、夢を実現させるイベントを開催

※ 詳細はホームページをご覧ください。

これまでの夢のイベント

- H7.7/27 第1回「阿蘇子ども出会いの里」**
熊本県・阿蘇で開催。阪神大震災で両親を亡くした子どもたちを阿蘇に招き、ホームステイ。子ども会議の子どもたちや地元の子どもたちと大自然に触れ、交流を深めた。
- H8.7/25~27 第2回「阿蘇子どもみどり村」**
熊本県・阿蘇で開催。子ども会議の子どもたち、筋ジストロフィーの少年たち、阿蘇の子どもたち、関係者ら総勢約200人が参加。雄大な自然の中で交流を深めた。
- H9.7/21~22 第3回「世界の子どもと手をつなごう」**
福岡市・大手門会館で開催。バングラデシュのカラムディ村から先生と教師3人を招き、関係者も含め総勢約150人が参加。カラムディ村に「夢みる子ども基金学校」の建設資金を贈呈した。
- H10.7/24~25 第4回「夢の放送局」**
福岡市・キャナルシティ博多のサンプラザで開局。子どもたちの夢トークや、筋ジストロフィーの少年バンドによるライブが行われた。また、市内中心部をラブウォークし、バングラデシュの基金学校教材費のために募金を呼びかけた。
- H11.8/8~9 第5回「ケーキがつなぐ友情の輪」**
熊本県・南関町で開催。第1回のイベントに参加した子どもたちや、当時のホームステイ先の方々なども一緒に大きなケーキ作り挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。
- H12.8/6 第6回「アフリカの大地に根付け 子どもたちの願い」**
福岡県・宇美町の農家で開催。内戦で苦しむアフリカ・スーダンに贈る食物の種子を収穫し、ユニセフを通じて現地へ送った。その後、竹馬、竹とんぼも作り、子ども全員で遊んだ。翌日、児童養護施設に贈呈した。
- H13.8/5 第7回「バリアフリーの社会を作ろう」**
福岡市・TNC会館で「子どもシンポジウム」を開催。バリアフリーについての子どもたちの意見をまとめ、小泉首相や行政機関に届けた。また、福岡盲導犬協会へ盲導犬1頭を寄贈した。
- H14.8/4 第8回「世界の子どもたちと交流」**
福岡市・ベイサイドプレイスで開催。「歌・踊り・食・遊び」を通じて国際交流をし、食の交流で一般市民から頂いた食事チケットの代金を九州大学留学生センターに寄付した。
- H15.8/3 第9回「日本の心を イラクの子どもたちへ」**
福岡市・アクロス福岡で開催。日本古来の遊具(竹馬、竹とんぼ、こま、折り紙、お手玉)、パッチワーク、教材費をイラクの子どもたちへ贈った。
- H16.8/1 第10回「子どもたちが結ぶ10年の夢」**
福岡市・アクロス福岡で開催。10回目の記念イベントとして第10回の「子ども会議」の子どもたちに、1回~9回のイベントに参加した子どもたちも加わり、総勢52名の子どもたちが参加。全員で幅12.6mの巨大な張り絵を製作した。また、福岡盲導犬協会へ2頭目の盲導犬の目録を寄贈した。

参加協力歯科医院内訳(45都道府県)

都道府県名	医院数	都道府県名	医院数	都道府県名	医院数	都道府県名	医院数	都道府県名	医院数
福岡	470	佐賀	51	香川	18	愛媛	7	高知	2
東京	221	埼玉	41	岡山	17	山形	6	徳島	2
大分	115	北海道	34	栃木	14	山梨	5	鳥取	2
鹿児島	96	千葉	32	宮城	14	岐阜	4	富山	2
兵庫	68	大阪	29	愛知	13	京都	4	秋田	1
山口	64	広島	23	群馬	12	滋賀	4		
神奈川	63	沖縄	23	長野	12	島根	4		
熊本	61	茨城	20	三重	11	福井	4		
長崎	61	静岡	18	岩手	10	和歌山	4		
宮崎	52	福島	19	青森	10	石川	3		
									平成16年8月現在会員数…1746件 この1年間の新規加入…128件